



「美術館建設現場見学会」と「対話会」を開催しました!!

12月4日(日)55人(会員等とPFI事業者)が初めて対面して開催しました。現場見学会では、「実際その場で説明を聞いてみると多くの発見や気づきがある。」「具体的な完成イメージが湧き、開館が更に楽しみになる。」「美術館への関心を高める良い機会だ。」等の感想が聞かれ、「対話会」では、植栽計画等について設計管理担当の長谷川龍友氏(楨総合計画事務所)より、丁寧に分かりやすい説明を受けました。コロナ禍での不安いっぱいの開催でしたが多くの参加者と話題を共有でき、次の活動目標も見つけられました。運営担当のパートナーズさんから、「次回の対話会では、今回のご質問・ご意見への対応、進捗状況の共有と、植栽、周辺環境に係るボランティア活動についての協議ができればと思います。」という連絡がありました。2回目の「対話会(意見交換会)」の開催を楽しみにお待ちしております。



倉吉市図書館前の「ヒンメリ」ツリー
(12月25日昼まで展示中)

11月13日・29日に未来中心で行われた「ヒンメリ作りワークショップ」の参加者手作りの「ヒンメリ」を一人一人がもみの木に飾り付けて出来上がったツリーです。「ヒンメリ」発祥地「北欧」の雰囲気をご存分に醸し出しています。お近くにお越しの時にはどうぞ近くによって御覧ください。いったい何人の作品が集まっているのでしょうか…?! そもそも「ヒンメリ」って、何からできているのでしょうか…?! イルミネーションが点灯すると、どんな輝きを見せるのでしょうかね?! いろいろと空想や想像を楽しんでみられてはいかがでしょうか …☆彡…☆彡



寒さはこれからが本番です!!
体調管理に努めて年末年始をお迎えください!!!



鳥取県立美術館周辺の植栽などについて質問する参加者(手前右から2人目) = 4日、倉吉市上瀬の上瀬コミュニティセンター

周辺植栽など意見交換

県美応援団と設計運営事業者

初の対話会

2025年春に倉吉市に開館する鳥取県立美術館の成功を願って県民でつくる「とっとり県美応援団」は4日、県と一体となって設計から開館後の運営まで担うPFI事業者「鳥取県立美術館パートナーズ」との建設現場見学会と対話会を市内で開催した。同社は県内企業を含む10社で構成され、この日は警備会社などをのぞく7社から9人が出席。建物の進捗よく状況を参加者らと確認後、美術館周辺の環境整備について団員らと意見交換した。(吉浦雅子)

24年春に建物が完成する頃と対話するのは初めて。ことから、植栽など周辺の環境整備に団員の関心が高まっていることから会を開いた。代表企業の大和リースをはじめ設計や管理、建設、維持管理、運営する社外の彫刻の庭にはおなじみの担当者がそろって同僚

に限定するなどの基本方針を説明した。対話会には約40人が参加。出席者からの「ダイゼンキョウボクなど鳥取ならではの草木を植えて」「芝は県産芝を使ってほしい」の要望に、長谷川さんは前向きに検討したい」と答えた。「緑が建物から遠い」との意見には「大事な美術品を害虫から守るといふ観点での配置」と理解を求めた。

同応援団の佐伯健二団長は、応援団が「パートナーズ」との対話の機会を作ることは大切。有意義だった。開館も近づいてきており楽しみになってきたと話した。